

令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田南小学校	校長	西岡 律子	生徒指導主事	宇多 弘典
取組事例名		『いつでも、どこでも、だれにでも挨拶できる南っ子をめざして』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「主体性・積極性」	3	「自己理解・自らの自信」	2
取組のねらい					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶をすることで、学校全体を明るく元気にし、児童が安心して学校生活を送れるようにする。 ・ 委員会による挨拶活動の取組により、児童の挨拶を習慣付ける。 ・ 挨拶をすることで、温かい人間関係や児童同士の絆を深める。 ・ 挨拶名人を表彰したり放送で紹介したりすることで、自己肯定感を育てる。 					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 キーワード「児童どうしが高め合うあいさつ」		
<ul style="list-style-type: none"> ○本年度から生活目標を挨拶に一本化し、挨拶委員会を発足させた。 ○4段階の挨拶レベルを各教室に掲示した。 ○毎月挨拶アンケートを実施して、次の月の生活目標に生かした。友達、教師、交通ボランティア、お客さんの4人の相手を意識させるアンケートにした。 ○5月からの取組 毎週火・木曜日7:40～8:00に各階（本校は4階）に、挨拶委員が2名ずつ立ち、出会った児童や教師に挨拶する。 ○9月からの取組 毎月挨拶名人の表彰を行う、挨拶委員会が推薦して挨拶名人を決めた。 ○2月からの取組 挨拶委員が提案した挨拶カウントプロジェクトを実施する。登校時、児童がボランティアの方々に挨拶した回数を記録する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶に特化した委員会を設けることで様々な挨拶活動の取組を自治的にすすめた。 ・ 挨拶レベルを示し、南っ子として目指す挨拶を具体的にした。 ・ アンケート結果を知らせ交通ボランティアの方やお客さんへの挨拶が十分でないことに気付かせた。 ・ 1年間を通して児童に主体性をもたせながら、教職員からのアイデアを提示したり、選択肢を増やしたりした。 ・ 挨拶委員が多くの人と出会う場所を選んで模範的な挨拶（語先後礼）のお手本を示した。 ・ 校長室で委員会から表彰されることで、児童が挨拶をする意欲をより高めることができた。 ・ 放送による「あいさつ名人」の紹介等を委員会児童に任せ、活躍の場を増やした。 ・ 挨拶アンケートの結果、比較的数値が低かった交通ボランティアの方々に特化したイベントをする。 ・ 数値化することで、自分や友達の頑張りに気付かせた。 		
取組の成果と課題					
<ul style="list-style-type: none"> ○2月の挨拶アンケート結果の肯定的評価は、児童97%、教師97%、ボランティアの方91%、お客さん93%であった。4月の数値と比べると平均10%前後よくなっている。 ●少人数ではあるが、挨拶をしない児童がいる。来年度は挨拶イベントを増やして肯定的評価100%を目指す。 ○挨拶名人の表彰や教職員からの肯定的評価により、自らあいさつをする姿が見られるなど児童の自己肯定感が育った。 ○アンケートの結果を意識することで、教職員が、共通認識をもって取り組んだり児童を主体とした活動に取り組んだりすることができた。 					